

## 第1回 中央区緑化推進委員会 議事概要

### 【出席者】

学識経験者：鈴木委員長、木下委員

区民・事業者代表：中島委員、岸本委員、田中委員（欠席：濱崎委員）

オブザーバー：加藤智康

区職員：浅沼委員、望月委員、松岡委員

事務局：水とみどりの課、(株) エイト日本技術開発

### 【配布資料】

- ・資料-1：緑の基本計画の進捗状況
- ・資料-2：中央区グリーンインフラガイドライン（仮称）の策定について
- ・参考資料-1：中央区グリーンインフラガイドライン（仮称）策定の実施方針（案）
- ・参考資料-2：中央区の課題とグリーンインフラ機能の整理
- ・参考資料-3：中央区基本計画 2018 計画の体系図
- ・参考資料-4：中央区花咲く通信

第1回 中央区緑化推進委員会の主な意見内容を示す。

### 1. 緑の基本計画の進捗状況について

鈴木委員長	花咲く街角ボランティアの活動はもっと中央区らしい、親しみのある名称にしてもよいのではないか。
木下委員	保育園と一体的な立体都市公園として整備した水谷橋公園の取組みについて、中央区のような高密度の立地では有効な制度だと思う。
岸本委員	桜川屋上公園では周辺からの騒音苦情が出たことがあったが、水谷橋ではそのようなことは出ているかどうか。 (区回答：現時点では苦情等は出ていない)

## 2. 中央区グリーンインフラガイドラインについて

鈴木委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グリーンインフラの最も重要なポイントは、それによって豊かな生活空間が形成されるというところ、これを区民が実感できるようにしていかないといけない。</li> <li>・ 海外のグリーンインフラの代表的な事例とされるNYのハイラインは、実のところ地域に昔からあった資源を見直し再生させたもので、歴史や文化の継承の豊かさを示す事例でもある。中央区においても、本来土地が持っていた良さや自然などを回復するような取り組みができるとういと思う。</li> <li>・ 中央区の3つの地域（日本橋・京橋・月島）ごとのグリーンインフラの在り方を考えていく必要がある。</li> <li>・ ガイドラインそのものとは別に、このガイドラインやグリーンインフラの考え方が浸透するような伝達方法、PRを区民に対して広く実施していく必要がある。</li> </ul>
木下委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グリーンインフラの普及というのは非常に難しい点で、区民が自分のこととして考えられるように分かりやすく表現していく必要があると思う。グリーンインフラによってこういう風にまちが魅力的になる、快適になるという部分を伝えていけるようにすべき。</li> <li>・ 中央区の商いのまちとしての性質を踏まえると、商業振興・産業振興・観光と絡めたグリーンインフラは大きなPRのポイントになるのではないかと。</li> <li>・ 個別の整備事業にとどまらず、エリアマネジメントの範囲でグリーンインフラを取り入れて魅力向上、商業振興につなげていくような取り組みをぜひ具体的に進めていければと思う。</li> <li>・ グリーンインフラの機能として、アメリカなどでは水質浄化が重要な要素となっている。東京23区も合流式下水道が残っており、中央区の河口に位置する立地を踏まえて浄化機能に配慮した設計を取り入れていきたい。</li> </ul>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今、福島などの被災地や日本各地から苗を取り寄せて区内に植樹する取組をやっている。今後の中央区の開発の方向性はKK線跡地の緑道化など、将来にわたり大規模なものになるので、そういったものを拡大して連携していけるとよい。</li> <li>・ コロナ禍を受けて今後、屋外、緑のあるオープンスペースで過ごすことがより身近になってくると思う。地域のコミュニティの場であるとか、そういった緑の活用の仕方も考えていくべきではないか。</li> <li>・ 台東区では隅田川のテラスを有効活用し、京都の川床のような使い方を考えている。</li> </ul>

岸本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月島を中心としたエリアは今後再開発が進み、住民が非常に増えていくことが予想される。そういった場所で、新しい住民や子どもたちにも身近に感じられるような、一般の人が参加しやすい取組を示していけるとよい。</li> </ul>
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近でも緑の基本計画はあまり浸透していない印象がある。グリーンインフラについても、ヒートアイランドや低炭素などの環境問題との関係やどんな活動を実際にやるかなど、区の広報を通じて多くの人の目に触れるようにしていけないといけない。</li> </ul>
加藤オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニューヨークの事例では、市の街路樹管理のデータ全てを位置情報（GIS）に落とし込み、剪定や枯損の記録の管理を行っている。中央区の中でそのような手法を今後検討できるのではないかな。</li> <li>・ 大規模再開発が注目されやすい一方で、中央区は低層中層のビルも非常に多く、そういった既存の箇所の屋上緑化を推進していくことが緑被率のアップにもつながるのではないかな。</li> <li>・ ガイドラインとしてはどのような設備を入れて、どれくらいのコストで緑地ができるというような部分も併せて示していけるとよい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋上緑化は過年度に基準を緩和するなど、新設・既設問わず制度の活用を進めているところである。</li> <li>・ 亀島川護岸や壁面の緑化については当初、緑の確保の観点で実施していたが、カルガモが住み着くなど生物多様性の面からも結果が出てきている。</li> <li>・ 緑の基本計画策定に当たり緑化重点地区の指定を行い、認定市民緑地制度など新たな国の制度を活用した官民連携の取組みについても事業者から色々打診が来ているところである。</li> </ul>